

歴史と伝統を未来に繋ぐリノベーション

* Kyoto Century Hotel 2 restaurant renovation

国際観光都市「京都」のまさに玄関口、京都駅付近に建つ開業30年のホテル。
またさらに前進としてこの地に昭和3年開業した京都ステーションホテルから数えると84年の歴史を持つ。

その長い歴史のなか、30年越しのリノベーションにあたっては単なる商業空間としてではなく、
京都の玄関口に建つホテルの責務として、京都の伝統的な美術や工芸、新鋭技術を現代的な形で世界に発信し未来に繋ぐというメッセージの責務を強く意識したプロジェクト。



↑かんじんの京灯り 【伝統工芸を未来に繋ぐ】

かんじん（最も大事なもの）を忘れず、奢らず、伝統工芸の原点とその日々の進化・未来を伝え続ける灯り。H4.8m Ø2.4m。
支柱は仏具の金工職人による銅のヘラ絞り、シェードの外周は木工職人により手作業で姫小松を3次曲面で切抜き、送り火のシルエットを含む京都の山並みを表現。シェード内側は京都の華をモチーフにした絵地図文様を西陣織で織り上げ、灯具はLEDを京行燈の職人の手によって造りあげた。

↓刻版によるアート計画 【新鋭技術を未来に繋ぐ】

京都で精密金属加工を行う川並鉄工株式会社で開発された「刻版」という技術により、黒色に電着着色された1mmのアルミ板を1/1000mm単位の差で割り分け、その深度の差、反射の違いによりアルミ板に画像を浮かびださせる。
花びらの重なり、桜と東山との重なる風景を陰影により表現した。
デザイナーと写真家、デジタルクリエイターと鉄工屋のコラボレーションアートである。

